

かじき

広報

全ご家庭に、もれなく配布

第177号

45. 12. 15 発行

発行 鹿児島県始良郡
加治木町役場
編集 総務課文書係
印刷 吉屋印刷所

年の瀬

すばしこく どこか間の抜け

冬の蠅 牧笛郎

いよいよ昭和四十五年も押しつ
まり、あわただしい歳末の気分が
町中にただよいます。

年に一度のごあいさつ、旧交を

暖め、友情を示し合う年賀状は、

二十二日までには出しましょう。

正しいあて名と、必ず郵便番号を

年末から年始にかけての連休を

どう過ごそうかといった計画や、

かねて予定のお買物の計画をお立

てになっっていることでしょう。お

出かけの際は、戸じまりや火の始

末を完全に。とくに飲酒の多い時

期。飲酒運転は絶対にやめよう。

みんなそろって暖かいお正月が

迎えられるよう「歳末たすけ合い

運動」に協力しましょう。



麦植えにいそがしい農家…… 里の下たんぼで

■ メ モ 人口……18.718 男……8.767 女……9.951 世帯…… 5.694 (11月1日現在)

投票率は七七・六七パーセント

センター・性応・錦江は低調

任期満了にともなう町長選挙は十二月五日、町内十一の各投票所で行なわれました。

これから四年間、町政をあずかる町の代表者を選ぶとあつて投票をする人の出足も好調。それでも町選管では、たえず広報車をくり出し棄権の防止を呼びかけました。投票率は、前回の七三・七四パーセントを三・九三も上回る七七・六七パーセントの好率を示し、昨年末の衆議選をも上回りました。男女別では、つぎのとおりです
男子 七七・六七パーセント
女子 八〇・二九パーセント

婦人層がかなりの高率を示しており、男子より五・八六パーセントも伸びているのが注目されます。各投票所の投票率をみますと、

木田内場公民館と上場地区の投票所は、いずれも八〇パーセントをこえています。下場のセンター・性応寺、錦江小の三投票所が、いずれも七〇パーセント代で終わつたことは、ほかがいだけに残念なことです。来年四月の統一地方選挙には棄権のないようお互いに心したいものです。

午後八時から即日開票が議事堂で行なわれ、曾木隆輝氏（六十六

歳）が五、九一三票で六選目を当選、第十五代の町長として就任しました。

有権者総数 二、一〇一人

投票総数 九、三九九票

有効投票数 九、三三三票

曾木隆輝 五、九一三票

緒方明男 三、四二〇票

明らかに正しい選挙を

青年団などバレード

町内の青年団が中心となつて、婦人会の有志や明るく正しい選挙推進員など五十人が、町長選挙の運動が始まつている。十一月二十九日に、青年団員の自家用車二十台に分乗、町内全域をパレードして、明るい違反のない正しい選挙と棄権の防止を、町民に呼びかけました。

町長就任のごあいさつ

曾木隆輝

十二月九日で任期のきれる私はつぎの町長選挙に立候補しましたところ、皆さんの心からのご協力により当選の栄を得ましたことはただ感激の極みであります。

しかも、県内で政治意識の高い所とされている当町で、六期目を終えようとする坊ノ津の長井町長と回数を同じくするに至りましたわけで、全く至らぬ私に寄せられました、皆さまのご支援に対してはお礼の言葉もありません。

ご承知のとおり、ただいま本町は大へんむつかしい新時代に突入しようとしています。本町内外には限りなく多くの重要問題が横たわっています。これが解決には、並大抵のことではあるまいと思えます。選管から当選証書をいただきました七日、早速県から予算折

渉のため上京をうながされましたし、定例町議会や始良郡西部各町との当面の問題で協議会も開かれますなど、町政の進展には一刻の

猶予も許されません。

さように、今日の本町の町勢は常に緊張の連続であり、今後の数年間は本町百年の計の基礎造りであり、極言すれば本町発展の岐路に立っていると申せましょう。

私は自治行政の如何なるものかについては、ささやかでも見聞は重ねましたし、その理念も少しはわかまえてはいるつもりでも、町内の一本一草も知り尽くしてはいながら、微力意の如く参りませんが、政治目標は、何と云っても町民の融和であり、これによつての町勢の進展であり、町民の福利増進で

各投票所ごとの結果 男 74.43% 女 80.29%

投票区	投票所	有権者数(人)	投票者数(人)	平均投票率
1	センター	4,203	3,274	77.90%
2	性 応 寺	1,672	1,227	73.79
3	錦 江 小	2,615	1,879	71.85
4	木田内場	683	556	81.41
5	永 原 小	725	613	84.55
6	ひ な ば	212	179	84.43
7	鎮 守 校	295	264	89.49
8	西 浦	330	265	80.30
9	川 内	334	296	88.62
10	竜 門 小	710	585	82.39
11	中 野 小	322	261	81.06
合 計		12,101	9,399	77.67
昭和41. 12. 5 執行町長選挙		11,687	8,419	73.74

なければならぬと固く信じています。

町という、一つの有機体は、年齢、性別、職業別という社会集団を一括してはいますので、この間の結びつきをどうしてまとめていくかが、むつかしいわけです。

新しい任期に入りました私の政治目標については、立会演説などで大略申し述べましたが、日本の現状や政府の政策に飽き足らぬものを感じながらも、理想は高くも一方、現実の上にも立脚せざるを得ませんので、町民最大多数の最大福利をもたすために、魂か

ぎりの努力をいたす覚悟です。

時と問題によつては、右にすることを左にするか決断を迫られることでもありますし、町民の皆さんのご意見でも一致しないこともありましよう。私は手をこまね傍観は許されませんので議会、各機関や住民のご意見の集約的な点を基に、是と信ずる方向へ向かわざるを得ないこともあります。なした

いことも財源に限度があり、延ばすこともありません。最大の努力をいたしますので、どうぞ皆様のご協力をお願いいたします。

ごみ焼却場が完成

児童プールや公園も設ける

四 部 町 の 西 力 町



操業を始めたごみ焼却場

町内のみろくに始良西部衛生処理組合（加治木・始良・蒲生・溝辺町）が建設中のごみ焼却場は、ことしの三月から五千九百万円の経費を投じて工事をすすめていたが、このほど完成、さる十一月六日來賓や関係者など二百人が参加して、落成式が行なわれた。

この焼却場建設費の財源には、国からの補助金四百万円。起債二千八百万円。四か町の負担金二千七百十三万一千円など総額五千九百十三万一千円が、あてられています。なお加治木町は五百七万三千円を負担しています。

建設費の内訳は、本体工事費三千六百七十四万五千円。付帯工事費一千七百二万円。用地買収や補償金四百九十九万六千円。事務費三十七万七千円となっています。

焼却場は一日に二十五トンのチリやゴミを処理することができ、す。トラックで収集してきたゴミは機械の操作によって最も燃えやすい状態にされ、摂氏七百度から一千度の高温で焼却します。

におい（臭気）や煙（排煙）放流水などの対策も、各操作部門でそれぞれ配慮されるなど、公害防止対策が構じられています。

焼却場の付近一帯は、すっかり整備され、入口の公園には桜、ツツジなどの樹木が植えられ、こどもたちのための温水プールやブランコ、スベリ台などのほか、水飲み場や便所もできて、以前とは、まったく違った名所となっています。

年末の郵便
□年賀状は二十二日までに
ことしも十二月十五日から年賀状の受付が始まります。年賀状は早目に書いて、元日には先方にとどくよう、おそくとも十二月二十二日までは出しないう。

心のカギと
戸じまりを
十二月の声を聞くと、何となく気ぜわしく、心にゆとりを失いがちになります。

おもわぬユダン
少年の非行は、加治木署管内では、ここ二、三年横ばい状態でしたが、本年に入り再び増加の傾向にあります。

固定資産税
（第四期分）

郵便番号は住所の一部です。年賀状にも必ず郵便番号を、正しくはつきりと書きましょう。郵便番号を記入すれば、都道府県名は省略してもかまいません。

少年の非行の防止
▽盗犯の予防
戸じまり、かぎかけ、案外まもられていません。

おもわぬユダン
「うちのこどもに限って……」この安易感に禁物、親の目の届かないところで、非行の芽がのびています。少年の非行の芽は、みんなの力でつみましましょう。

固定資産税
（第四期分）

小包は年内配達ができるようおそくとも十二月十五日までに出しないう。もちろん郵便番号を書いて包装はとくに厳重に

よ。とくに団地や間借り下宿などは、室番号、〇〇様方、〇〇荘内などを忘れずに。

固定資産税
（第四期分）

固定資産税
（第四期分）

■ スポーツ日より

一般バレー大会

優勝南日本牛乳

町内一般のバレー大会は九チームが参加。成績は次のとおりです

- ①南日本牛乳 ②町役場
- ③加警察署 ④加治木高校

ソフトボール大会

優勝は永大ハウス

十七チームが参加して行なわれました。結果は、つぎのとおり。

- ①永大ハウス ②スパイダー
- ③町役場 ④加治木警察署

第三回義弘公

奉賛剣道大会

郡内から十八校(中学十一、高校七)が参加しました。招待校は吉田北中と伊集院町の土橋中です

- ▼中学校の部
 - ①土橋中 ②加中
- ▼高校の部
 - ①加治木工高 ②国分実高

ロードレース大会

▼小学校の部(二キロ)

- ①榎谷秀樹(錦) ②吉村正和(竜)
- ③榎園照博(柁) ④中原茂一(竜)
- ⑤川下浩二(錦) ⑥中学一年の部(三キロ)

〃〃〃〃〃〃〃〃〃

町社会福祉協議会へ

香典お返しのかわりに、ご寄付をいただきました。厚くお礼申しあげます。

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--------------------------------------|---|--|--|--------------------------------------|---|--|--|--------------------------------------|---|--|--|--------------------------------------|---|
| ①蓬原千春(永) ②市原竜治(加) ③上村和高(永) ④内村明人(竜) ⑤上枝考良(加) | ①大村潤一(加) ②小宮路行春(永) ③石野高昭(竜) ④福森哲夫(永) ⑤桑迫輝文 | ①真方正己(加工) ②宮原幸二(〃) ③町田正利(〃) ④松下田進(〃) | ①一般の部(七キロ) ②上野章一(明乳) ③向江豊(町役場) ④米沢重則(〃) ⑤今西健二(〃) ⑥小城照夫(〃) | ①蓬原千春(永) ②市原竜治(加) ③上村和高(永) ④内村明人(竜) ⑤上枝考良(加) | ①大村潤一(加) ②小宮路行春(永) ③石野高昭(竜) ④福森哲夫(永) ⑤桑迫輝文 | ①真方正己(加工) ②宮原幸二(〃) ③町田正利(〃) ④松下田進(〃) | ①一般の部(七キロ) ②上野章一(明乳) ③向江豊(町役場) ④米沢重則(〃) ⑤今西健二(〃) ⑥小城照夫(〃) | ①蓬原千春(永) ②市原竜治(加) ③上村和高(永) ④内村明人(竜) ⑤上枝考良(加) | ①大村潤一(加) ②小宮路行春(永) ③石野高昭(竜) ④福森哲夫(永) ⑤桑迫輝文 | ①真方正己(加工) ②宮原幸二(〃) ③町田正利(〃) ④松下田進(〃) | ①一般の部(七キロ) ②上野章一(明乳) ③向江豊(町役場) ④米沢重則(〃) ⑤今西健二(〃) ⑥小城照夫(〃) | ①蓬原千春(永) ②市原竜治(加) ③上村和高(永) ④内村明人(竜) ⑤上枝考良(加) | ①大村潤一(加) ②小宮路行春(永) ③石野高昭(竜) ④福森哲夫(永) ⑤桑迫輝文 | ①真方正己(加工) ②宮原幸二(〃) ③町田正利(〃) ④松下田進(〃) | ①一般の部(七キロ) ②上野章一(明乳) ③向江豊(町役場) ④米沢重則(〃) ⑤今西健二(〃) ⑥小城照夫(〃) |
|--|--|--------------------------------------|---|--|--|--------------------------------------|---|--|--|--------------------------------------|---|--|--|--------------------------------------|---|

随想

秋の山をゆく

曾木隆輝

私は選挙運動中、ジープで町内くまなくかけ廻った。すっかり知りぬいた道と人ゆえ、案内役はいらなかったが、人の心にくい込むことのむつかしさをつくづく感じた。

自分の出す騒音が町民に迷惑をかけそうで気がでなかったある日、人かげの全くないダンプシ坂の中腹に行った。それは家も事務所もゴッタ返しだし、路上では緊張してすきがないので、しばし気持ち落着けよう

と思つたからだ。むかし、参勤交代のとき通路だったという大きな石畳の坂道は、ほほ昔の面影をとどめていよう。どこからかチョンマゲ姿が出てきそうな道の両側は、ススキの穂で真綿のカーテンのようにゆれ、その根元にはツワブキの黄色い花が生花の根じめを思わせる。大きな石板の間に野菊のきれいな花が頭をもたげている。付近の雑木林の中に、まっかな櫛の葉がひとときわ眼をいる。前方はるかな海は波もなく、桜島は眠ったように静かだ。私は道ばたの草の上に寝ころんで天を仰ぐ。一点の雲もない西の空から柔かい陽ざしが流れてくる

どこかでモズが鳴く。私は、なぜ加治木じゅうを騒音と混乱の巷として終わねばならぬのだろう。こんな静けさの中に波乱を起こさねばならないのか。やはり私自身に徳が備わらず力が足りない結果でもあるろうと、反省させられた。

微力ながら夜昼の別なく二十年間がんばってきた私だが、激動する現在の町政に捨て石となつて働こうと決意し、立候補して町民の審判を仰ごうとしている。狂気の沙汰と見る人もあろう。それでも私は自分をそだててくれた故郷のために、という一念から立ち上がっている。私の人生観が、ここまですりつめたのだと思うのだった

「さあ行つてもや」と、うながされてジープに乗る。ここだけは遊歩道に残そうと思つて県道に出た。茶碗屋から上小山田へ向かう乗員が、かわるがわる私の名をよんでくれる。声が山にこだまして行く。

道風の坂を辺川にくだる時、いつかの選挙運動中、この坂でさる婦人が「道風の皆さん」と呼びかけたので私が「ここは辺川だ」といったところ、この婦人が「へどうふうの皆さん」と呼びかけ、私をあわて、また苦笑させたことを思いだし、いまは亡きこの人の冥福を祈りながら、坂をおりた。

□十二月五日までの、ご寄付を掲載しました。

仮屋町 寺師登喜子

(二男関山千尋)

五千円

反土黒川上園好光(母ナヲ)

五千円

限原 坂元 清(妻ツマ)

五千円

本町 篠崎武則(父武二)

千円

川内 東木ライク(夫喜三)

五千円

西の原 川添誠二(妻イト)

二千円

高井田 福崎 勲(父常盛)

五千円

長谷 伊福春男(父彦二)

五千円

里下 犬童武雄(妻ヒデ)

五千円

高井田 猪目シオミツ(夫清二)

二千円

辺川下 小宮路福美(父善四郎)

一万円

岩原 木場サキ(夫 操)

一万円

岩穴口 岩穴口ヒデ(夫定二)

育英奨学資金へ

三千円

高井田 福崎 勲(父常盛)

一万円

岩原 木場サキ(夫 操)

育英奨学資金へ

十万円

本町 厚地一徳